

平成30年度

第2回本巢市総合教育会議議事録

(平成31年2月20日)

本巢市教育委員会

第 2 回 本 巢 市 総 合 教 育 会 議 議 事 録

- 1 開 会 平成31年2月20日(水) 午前10時35分
- 2 閉 会 平成31年2月20日(水) 正午
- 3 会議場所 本巢市役所 本庁舎 1階公室
- 4 出席又は欠席した構成員

(1)出席構成員

市 長	藤原 勉
教 育 長	川治 秀輝
教育委員	汲田 美枝子
教育委員	小澤 明年
教育委員	村瀬 里佳
教育委員	黒田 隆吉

(2)欠席構成員

なし

- 5 説明のため出席した者の職氏名

市 長 部 局	総 務 部 長	畑中 和徳
教育委員会事務局	事 務 局 長	溝口 信司
	参事兼学校教育課長	岩井 隆司
	参事兼社会教育課長	白木 和雄
	学校教育課総括課長補佐	林 誠司
	学校教育課教育支援係長	森 誠
	社会教育課文化・	
	スポーツ振興係長	安藤 貴広
	教育センター特任指導員	矢野 博司

- 6 協議事項

- (1) ウォークのまちづくりについて
- (2) 平成30年度 全国学力・学習状況調査について
- (3) 生きる力を育むプロジェクトについて
- (4) 教育委員会の取組み状況について

開会 午前10時35分

溝口事務局長：開会の宣言。市長にあいさつを求めた。

藤原市長：新年度予算でも教育環境の整備を引き続き精一杯進めていきたい。子ども達一人ひとりを支えていくのは、教育長はじめ教育委員、現場の先生等であり、その意を体してしっかりとやっていただくのが大事であり、現場の中でも活かしていただきたいとのあいさつをした。

溝口事務局長：協議事項 「(1) ウオークのまちづくりについて」、事務局に説明を求めた。

安藤係長：資料及びスクリーンを用いて説明した。

(資料1 平成31年度「ウオーキングのまち本巢」事業計画の説明)

藤原市長：ねんりんピックについて、モレラ岐阜から出発していくのか。

安藤係長：来年度に検討を始めていく。

2020ねんりんピックでは、ウオーキングをレクリエーション大会で実施することを考えている。

藤原市長：「もとすプライド」ハイキングについて、参加者が歩いてもらうのは良いが、見て回ると事故が心配である。

安藤係長：参加者が歩いていくハイキングコースは設定する。

川治教育長：高木貞治博士記念室や船来山古墳を多くの市民に見てもらいたいという思いを込めてのコース設定になる。

藤原市長：良いコースだと思う。ただ歩くだけではおもしろくないので、楽しみながら歩いていける。

川治教育長：基本は一人ひとりのライフスタイルにおいて、それぞれが自分で考えて健康づくりを行ってもらえるように結びつける手段である。

黒田委員：淡墨桜浪漫ウオークの良さは自然である。

モレラ岐阜の店内、外歩こうコースを利用するに当たり、車が置き、買い物・飲食ができ、とても良いアイデアだと思う。

自然をもう少し使うと良いと思う。例えば文殊の森だが、織部の駅に車を停めて、ハイキングとして使われている。

根尾川の大野町側の右岸は整備がされているが、本巢市側の左岸は正直整備があまりされていない。所々では整備がされていて歩くことができるが、夏になると葛葉が生い茂ってきて、歩

くことができない箇所がある。いろんな歩けるコースの選択肢があると良い。国土交通省との関係があるが、本巢市民がみんな健康で、どこに行っても歩いているという姿がひとつずつ広がっていくと良い。

川治教育長 : 山登りもタイアップして行うのも良いかもしれない。

溝口事務局長 : 協議事項 「(2)平成30年度 全国学力・学習状況調査について」、事務局に説明を求めた。

森 係長 : 資料及びスクリーンに基づき説明した。

矢野指導員 (資料2 平成30年度全国学力・学習状況調査から見た本巢市児童・生徒の強みと弱みの説明)

黒田委員 : 学校での教員の指導力が上昇していると思う。例えばデジタル電子黒板の使用により、基礎的なところは底上げができており、良いと思う。

川治教育長 : 子どもも上手に使うようになってきている。

岐阜市と連携し、来年度も教科指導員を岐阜市のそれぞれの教科研究会に派遣する。作成された教科書の指導案をいただき、全教員に配布し、工夫して授業ができるように進める。

藤原市長 : 子ども達に対し、わかりやすい授業となる。

溝口事務局長 : 協議事項 「(3)生きる力を育むプロジェクトについて」、事務局に説明を求めた。

岩井課長 : 資料及びスクリーンに基づき説明した。

(資料3 生きる力を育むプロジェクトの説明)

川治教育長 : データによると、子どもの運動量は月曜日が高い。

幼稚園の年長の運動能力はすごく伸びてきている。ようやく全国平均に近づいている。

岩井課長 : 既に全国平均を上回っている種目もある。

村瀬委員 : 以前に比べてある幼稚園では、園児の元気な声が聞こえるようになってきている。

溝口事務局長 : 協議事項 「(4)教育委員会の取組み状況について」、事務局に説明を求めた。

岩井課長 : 資料に基づき説明した。

白木課長 : 資料に基づき説明した。

(資料4 本年度までの主な教育施策等についての説明)

川治教育長 : 来年度に向けて、こんなようなことをやってはどうかなどのご

意見をいただきたい。

- 村瀬委員 : モチベーションの上げ方が、先生によっては異なっている。
個別懇談のときに受験のことを先生に聞いても、まだ早いと言われ、ギリギリのときに初めて自分の成績に向かうことがあった。それでは、早くから子どもも家庭でどのように勉強しているのか、モチベーションが上がらないのではないのかと、いろんな母親の方々と話していた。
- 汲田委員 : コミュニティ・スクールが今年度学園ごとに始まったが、その成果と課題は。教育に関して携わっていない方が委員としているが、来年度舵をどのように切って良いのか、何を中心にやっていけば良いのか分からない。ある程度、教育委員会が主導していかないと、できないのではないのか。
私達はこのように資料を貰って市の状況が分かるが、貰っていない方は今どういった状況なのか分からずじまいである。長になられる方に、全体の話聞かせては如何かと思う。
- 岩井課長 : 成果としては、小学校に見守り隊があっても誰が行っているのか、何人みえるのかが分からなかった校区もあったが、今年は見守り隊の組織整理が行われた。
今後は、学校運営協議会委員の研修会をもつことが必要になってくると考えている。
- 黒田委員 : 今教育委員会は良い事業を挙げており、可視化にされていると思うが、まだまだ足りないと思う。
コミュニティ・スクールで何をしようかと話題になったときに、挨拶と見守りだけである。
例えば幼児の体力がこれだけ増強したとか、学力が上がったとかの良い情報をみせていくことで、さらに地域が学校教育に対し興味関心が高まっていくのではないのか。多くの市民の目に付くように、いろんな事業の成果を広報紙に掲載しては。
- 川治教育長 : ある小学校の見守り隊は、1か月に1回学校に全員集まって地域状況の交流をしている。それを全校長に発表し、コミュニティ・スクールの改革のアプローチを始めている。また、来年度その小学校のクラブ活動の指導を、ほぼ地域の先生に替えようとしている。学校の中で、直接子どもに関わり、子どもにいろんなことを教えてもらうようなコミュニティ・スクールにして、見えるようにしていきたい。
さらに、土曜日授業で、1年生から6年生までを算数・数学甲

子園に参加させたいという話もある。

藤原市長 : 本市の教育は子どもに寄り添って行っているということをPR
することは良いことである。

溝口事務局長 : その他質疑等がないことを確認した。

溝口事務局長 : 閉会を告げた。

閉会 正午